



全員で創り上げた大一体育祭の意義

校長 藤森 克彦

先日、全児童による大一体育祭を盛大に行うことができました。皆様に直接ご覧いただけなかったことは申し訳なく思っておりますが、日頃の健康管理をはじめ感染防止の対応、子どもたちへの励まし、そして当日の参観を控えていただくなど、特段のご理解ご協力をいただきました。本当にありがとうございました。

今回の大一体育祭（運動会）は4色のクラス対抗で行いましたが、4色対抗は新型コロナにかかわらず1年前から教職員らで計画を温めていました。それは単に、勝ちにこだわって盛り上がらせようとかちょうど4クラスずつだからとかではなく、集団生活を基に子どもたちがより一層互いに協力したり助け合ったりする力や雰囲気をつくることであり、子どもたちに任せて子どもたちでやっていくという主体性や経験がさらに必要だと思ったからです。今年度はコロナ禍で、集団で同じ目的に向かって頑張るといふ活動が十分できなかつたところでしたが、自分たちでいろいろ考えて工夫できたことや、負けたけれどみんな全力で頑張っていたのがすごかったなど、子どもなりの新たな発見や自信につながる手応えを感じることができたようです。

ただ、4色にしたときに心配だったことは、一生懸命考えて練習して頑張ったのに負けてしまったとか、あの子のせいで点が伸びなかったとか、「負の気持ち」を自分らでどう「処理」していくのかという点です。まさに教育的に重要なところですが、そこを恐れ逃げていては子どもたちのさらなる成長は見込めません。今回の大一体育祭が子どもたちの自浄力を伸ばす機会となっていたか、引き続き子どもたちの人間関係などを見ていきたいと思ひます。

ところで、以前、文部科学省の中央教育審議会「義務教育に係る諸制度の在り方について」の中で、義務教育は社会の良き形成者を育てるといふ「社会の側からの教育」と、人生をより良く生きるための土台をつくるという「個人の側からの教育」の両方のバランスが重要であり、「我」の世界と「我々」の世界を生きることでできる人間を育てることが必要であると示されています。その時の審議会副会長であった梶田叡一氏（現 桃山学院教育大学 学長）も、「世の中で責任をもって仕事をやれるか、きちんと世の中で一人の市民として生きていけるかという面で『我々の世界を生きる力』を育てていかなければなりません。同時に自分の人生をどうやって生きていくのか、自分が存在しているという意識をもって、わくわくするとか悲しいとか、いろいろなことがあってもくじけずたくましく人生をつくりあげる『我々の世界を生きる力』を育てることが教育の大きな役割である」と話されていました。

今まで本校では、フレンド班活動をはじめ、校外学習、宿泊学習、PTAや親児の会のイベント、ボランティア活動、地域や専門家の方から学ぶ学習、合唱コンクールなど様々な活動を工夫してきました。今回全員で創り上げた大一体育祭の係活動や応援団も然りです。それらは、いわゆる「見える学力」に必ずしも直結するものではありません。しかし、人生を豊かにし、いつか自分の生き方の「何か」につながるものであると信じています。

コロナ禍であっても感染対策をしながら、子どもたちに必要なもの、形を変えればできることは、これからも模索していかなければならないと思ひます。



大一体育祭、がんばりました！



1年

1年担任 片岡 菜月

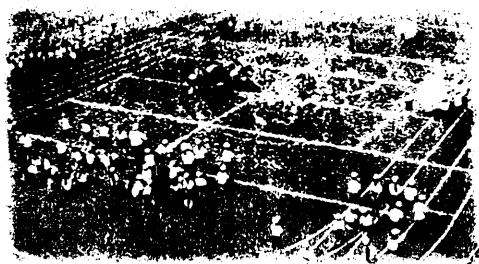
1年生にとって大一体育祭は入学以来、初めての学校行事でした。「腕を大きく振って走り切りたいです」「よくねらって玉を投げたいです」「大きな声で応援して優勝したいです」など一人一人が目標を掲げ、やる気に満ちた様子でした。体育祭当日は、かけっこ・玉入れの演技種目はもちろんのこと、各色のオリジナル応援歌やコールにも全力で取り組む姿に、たくさんの感動をもらいました。またひたむきに努力する姿や仲間と力を合わせることの素晴らしさを感じることができました。体育祭を通して多くの子が一回りも二回りも心身ともにたくましくなりました。今後の学校生活での活躍にも期待したいです。



2年

2年担任 野口 早紀子

今年度最初で最後の全校行事となる大一体育祭。元気いっぱいの2年生は「かけっこ」と「SD（ソーシャルディスタンス）大玉送り」に取り組みました。かけっこでは、自分のコースを一生懸命まっすぐに走ります。昨年度より力強さの増した走りに成長を感じました。SD 大玉送りは、大玉をのせたフラフープのひもを4人で持って運びました。ひもを持つ位置の工夫や持ち上げる高さ、走る速さを揃えて挑んだことで、学級の絆がまたひとつ強くなりました。振り返りでは、「一生懸命頑張ってたかった」という声が多くあがりました。町たんけんや生活科見学の経験を経て、ぐんぐん力を伸ばしています。



3年

3年担任 福本 千絵

3年生の団体競技は「何でもいただき」でした。「校庭の真ん中にあるマットや綱を自分たちの陣地により多く入れたチームが勝利！」という競技ですが、単純そうで実は奥が深いのです。終わりの合図が鳴るまでは、相手の陣地に入ったものも奪い取れるため、攻守のバランスはどうするか、そして、マットと縄では得点がちがうため、勝つためには何を狙うのか……。クラスで話し合い、練習を繰り返すうちに、戦い方にクラスの個性が出てきたところ、子どもたちが笑顔で楽しく競技に臨んでいたところが見どころでした。この競技で培われたクラスの団結力は、今後の活動に必ず生かされてくると期待しています。



4年

4年担任 村上 剛

クラス対抗になった体育祭！まず練習の仕方が変わりました。4学級一緒に練習するのは最初と最後だけであとは学級ごとに進めました。台風の日では様々な作戦を考えました。例えば、梅組では「並ぶ位置を端にしよう」や松組では「回る時には内側に回ることに気を付けよう」など、子ども視点でたくさんのアイディアを出し、それを試し、繰り返し練習するという流れができ上がりました。これは行事に向かう姿勢として素晴らしいものでした。

また、応援合戦も頑張りました。「団長さんに優勝旗を持たせたい」。そのような思いで体育祭に燃えた4年生でした。



※写真は台風の日で行った振り付けのシーンです！

5年

5年担任 中村 香織

5年生は学校を支えるリーダーとして、体育祭を盛り上げる大きな一助となりました。応援団やリレーの選手、審判・放送・出発補助の係や、各クラスの大縄実行委員など、クラスや学年の先頭に立って活躍したリーダー。朝早く登校し練習したり、休み時間も話し合ったりするなど、よりよいものを創りあげようと懸命な姿が見られました。目立たない所で、クラスや学年のために、体育祭を支えたリーダーもいました。5年生が挑戦した学年団体競技「ジャンピング・ウェーブ」は、限られた練習時間で各クラスが工夫して取組み、チームワークを高めていきました。本番では、どのクラスも最高記録を出すほどの接戦でした。皆が一体となり、鳥肌がたつほど集中した瞬間でした。

振り返りカードには、「来年は6年生のように体育祭を引っ張っていきたい」と書かれ、6年生の背中からしっかり学んでいました。このような貴重な経験が子どもたちの大きな糧となり、最高学年でそのパワーを発揮していくことが今から楽しみです。



6年

6年担任 菊池 未希子

今年度は初めての4色対抗での開催となり、応援合戦も今までとは違った新しい形にする必要がありました。そのため、子どもたちと共に、ゼロから考えて作りました。「パプリカ」「全力少年」「UFO」「USA」などの曲で替え歌を作ったり、それぞれの応援のコールを考え、下級生に教えに行ったりしました。9月末から、中休み・昼休みを使って5・6年生の応援団が一生懸命に考えてきたものを、それぞれの組が全力で出し合い、1～6年生が一つになる姿がとても立派でした。応援合戦以外にも、学年競技中に下級生のところへ行き、応援で盛り上げていました。かっこいい高学年が活躍することのできた行事となりました。



年間重点生活目標「正しい姿勢を意識して生活しましょう！」

今月の生活目標

生活のめあて	チャイムスタートをしましょう
保健のめあて	うがいと手洗いをしましょう
給食のめあて	感謝して食べましょう

の行事予定

日付	曜日	主な行事	日付	曜日	主な行事
1	日		16	月	個人面談① 午前授業
2	月	生活科見学(1年) 眼科検診(2,4,5年)	17	火	個人面談② 午前授業 放送朝会
3	火	文化の日	18	水	個人面談③ 午前授業
4	水	歯科検診(3,5年) フレンドタイム④	19	木	個人面談④ 午前授業 音楽朝会
5	木	避難訓練(二次避難)	20	金	個人面談⑤ 午前授業 児童集会
6	金	生活科見学予備日(1年) 卒業アルバム撮影(委員会)	21	土	
7	土		22	日	
8	日		23	月	勤労感謝の日
9	月	野球教室(4年)	24	火	放送朝会 眼科検診(1,3,6年)
10	火	放送朝会 琴体験①(5年) 色覚検査(4年) 卒業アルバム個人写真①(6年)	25	水	朝読書 歯科検診(2,4年)
11	水	午前授業 歯科検診(1,6年) 品川歴史館見学(4年)	26	木	朝読書 縦割り班会議①
12	木	琴体験②(5年) ネットリテラシー教室(6年) 品川歴史館見学(4年)	27	金	朝読書 卒業アルバム個人写真②(6年)
13	金	琴体験③(5年) 卒業アルバム撮影(クラブ)	28	土	
14	土	安全指導 授業参観 大森貝塚関先生講演(4年)	29	日	
15	日		30	月	朝読書 縦割り班会議②

生活指導部より

オールクリア

家庭科専科 木村 ひとみ

今月の生活目標は「オールクリア」です。教室を離れるときや下校するときに、机の上に出ているものをしまっ、何も無い状態にします。これは、「モノ」の使い方の話ではありません。学校生活でのけじめの付け方の練習です。遊ぶときは思い切り遊ぶ、学ぶときはしっかり学ぶためには、気持ちを切り替えないとうまくいきません。そのために終わった時間の学習道具をいったん全部しまします。すると次の時間も、必要なものだけを机の上に準備して学習に集中することができます。

「オールクリア」ができるようになったら、机の中やロッカーの整理整頓にも取り組んでみましょう。席を立つときは椅子をしまうのも習慣にできるといいですね。

リレーコラム「かかわる・創る」

1年担任 長澤 美寿々

1年竹組の子どもたちは、友達を助けようとする子が多いです。友達が怪我をして泣いていたら「大丈夫、何かあったの」と声を掛けたり、ドッジボールをしている時には「みんなで1回はボールに触れるようにしましょう」と言って、自分の持っているボールを他の子に回したりしています。また、友達とボールを取り合いになったときは、じゃんけんをして順番を決めることを教えると、「じゃあ、じゃんけんね」と自然に実践をしている姿が見られました。友達との関係を仲良く「かかわり・創る」ことができる1年生の姿を見ると、心が温かくなります。様々なことを経験しながら、友達と楽しく学校生活を過ごすことができるようこれからも支援をしていきます。